

# 大宜味村工業用水道事業経営戦略

団 体 名 : 大宜味村

事 業 名 : 大宜味村工業用水道事業

策 定 日 : 令和 4 年 2 月

計 画 期 間 : 令和 4 年度 ~ 令和 13 年度

## 1. 事業概要

### (1) 事業の現況

#### ① 給 水

供用開始年月日	平成25年6月21日	契約水量	(40)	m <sup>3</sup> /日
給水先事業所数	(2)	一日平均配水量	(28)	m <sup>3</sup>

※令和3年度現在は、工業用水道事業が休止中で他用水で供給中

#### ② 施 設

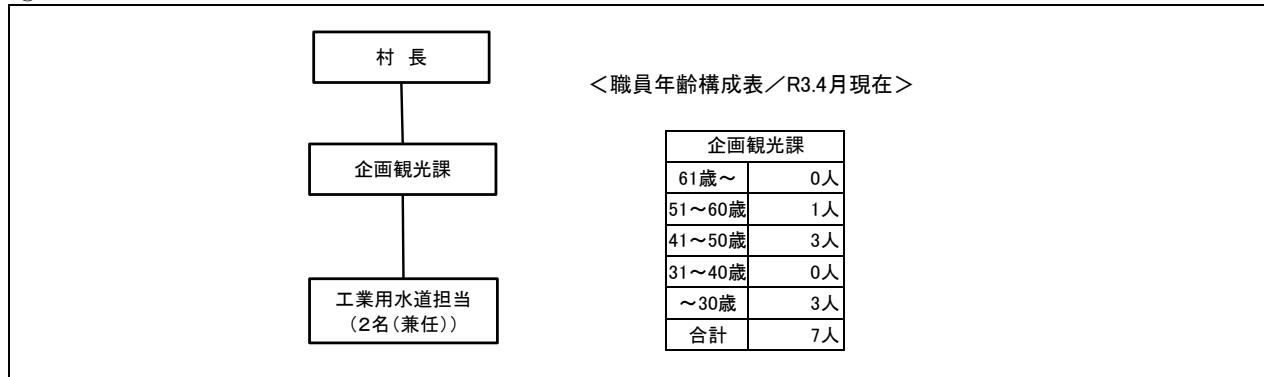
水 源	<input type="checkbox"/> 表流水、 <input type="checkbox"/> ダム、 <input checked="" type="checkbox"/> 伏流水、 <input type="checkbox"/> 地下水、 <input type="checkbox"/> 受水、 <input type="checkbox"/> その他 (複数選択可)			
施 設 数	浄水場設置数	1	管 路 延 長	2.396
	配水池設置数	0		
現 在 配 水 能 力	(200)	m <sup>3</sup> /日	契 約 水 量	(40)
				m <sup>3</sup> /日

※令和3年度現在は、工業用水道事業が休止中で他用水で供給中

#### ③ 料 金

料 金 体 系 の 概 要 ・ 考 え 方	条例において料金を定めており、将来にわたって安定して給水を確保するため、責任水量性(契約水量の全部又は、一部を使用しなかった場合でも、契約水量まで使用したものとみなして料金を負担する制度)を採用しています。 基本料金 40円/m <sup>3</sup> (税込) …基本使用水量(契約水量)の料金 超過料金 40円/m <sup>3</sup> (税込) …基本使用水量または、特定使用水量を超えて使用した水量の料金	
料 金 改 定 年 月 日 (消費税のみの改定は含まない)	現在まで改定実績なし	

#### ④ 組 織



### (2) これまでの主な経営健全化の取組

責任水量性を採用し、受水企業の使用水量に関わらず、契約した水量で料金を決定することにより、経営の安定を図っています。

### (3) 経営分析

※ 経営分析に用いる指標については、総務省が毎年度公表している「工業用水道経営指標」等を参考に各団体、各施設の実情に応じて適切なものを選択すること。

料 金 収 入	(H30)	(901) 千円	(R1)	(717) 千円	(R2)	(658) 千円
純 損 益	(H30)	2,164 千円	(R1)	1,851 千円	(R2)	2,028 千円
経 常 収 支 比 率	(H30)	181.9 %	(R1)	158.9 %	(R2)	174.6 %
固 定 資 産 に 対 す る 建 設 仮 勘 定 の 割 合	(H30)	0.0 %	(R1)	0.0 %	(R2)	0.0 %
現 在 配 水 能 力 に 対 す る 契 約 率	(H30)	(20.0) %	(R1)	(20.0) %	(R2)	(20.0) %
現 在 配 水 能 力 に 対 す る 施 設 利 用 率	(H30)	(22.1) %	(R1)	(15.5) %	(R2)	(14.0) %
料 金 回 収 率	(H30)	(74.3) %	(R1)	(43.6) %	(R2)	(51.0) %

【上記の指標等を踏まえた経営分析】

配水能力に対する契約率が低く、このため施設利用率も低迷しています。  
減価償却費について一般会計から繰入を行っており、このため経常収支比率は100%を上回っているものの、料金回収率は低い状況です。

※H29年度からR3年度現在は、工業用水道事業が休止中で他用水で供給中

## 2. 将来の事業環境

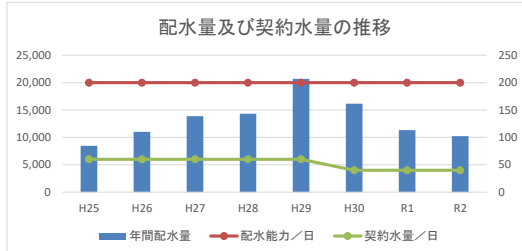
### (1) 水需要の予測

R4年度から供給先企業が新商品の生産を行うため、R4年度からは将来的な水需要は増えると予想しています。

(単位:m3)

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
年間配水量	8,476	11,026	13,885	14,332	(20,669)	(16,151)	(11,329)	(10,215)
配水能力/日	200	200	200	200	(200)	(200)	(200)	(200)
契約水量/日	60	60	60	60	(60)	(40)	(40)	(40)

※H29年度からR3年度現在は、工業用水道事業が休止中で他用水で供給中



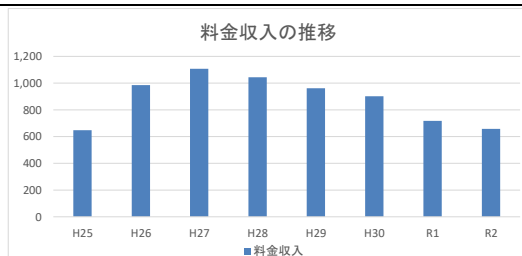
### (2) 料金収入の見通し

R4年度から供給先企業が新商品の生産を行うため、R4年度からは将来的な料金収入は増えると予想しています。

(単位:千円)

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
料金収入	648	985	1,107	1,044	(962)	(901)	(717)	(658)

※H29年度からR3年度現在は、工業用水道事業が休止中で他用水で供給中



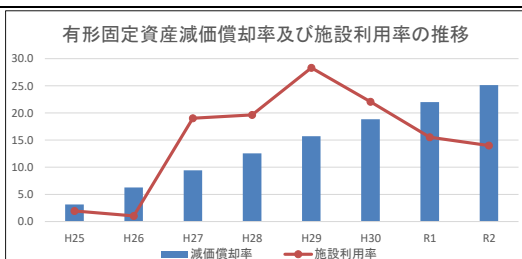
### (3) 施設の見通し

大宜味村工業用水道事業は、H25年度に供用を開始し、R2年度の有形高資産減価償却比率も25.1%で施設は比較的新しく、大規模な修繕も発生していません。  
また、本戦略の計画期間において、施設の更新は予定していません。  
施設利用率はH29年度の28.3%をピークに年々低下しているが、R4年度以降の水需要の増加により、上昇を見込んでいます。

(単位:%)

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
減価償却率	3.1	6.3	9.4	12.6	15.7	18.8	22.0	25.1
施設利用率	2.0	1.0	19.0	19.6	(28.3)	(22.1)	(15.5)	(14.0)

※H29年度からR3年度現在は、工業用水道事業が休止中で他用水で供給中



### (4) 組織の見通し

現在の組織体制については、企画観光課内で一般業務と兼務で最小人員で業務を賅っていることから引き続き、現在の組織体制を維持していきます。しかしながら、定期的な人事異動があるため、専門知識や技術を有する職員の育成が課題となります。

### 3. 経営の基本方針

大宜味村の工業用水道事業は、村の施策としての重要な産業基盤を支えるものであり、「営利」より「政策」的な部分を重視した企業運営を行っております。また、工業用水道を安定し安心して利用していただくため、供給を受ける企業との信頼関係を維持・継続することも重要となります。工業用水道事業は、工業用水の安定供給と事業の健全化を通じて地域経済の発展・活性化に貢献できるよう事業経営に取り組みます。

### 4. 投資・財政計画(収支計画)

(1) 投資・財政計画(収支計画)：別紙のとおり

(2) 投資・財政計画(収支計画)の策定に当たった説明

#### ① 収支計画のうち投資についての説明

目 標	本計画期間において、施設の建設改良に係る投資は予定していません。
-----	----------------------------------

#### ② 収支計画のうち財源についての説明

目 標	資金不足が生じないように財源確保に努めます。
-----	------------------------

料金：R5年度は契約水量が増える見込みの為、それに伴い料金収入も増額を見込んでいます。  
繰入金：経営基本方針に基づき工業用水の安定供給と事業の健全化を図るため、将来の設備投資に備えた額を見込んでいます。

#### ③ 収支計画のうち投資以外の経費についての説明

R5年度以降、以下の考え方に基づき計上しています。  
動力費・委託料・その他(経費)：R4年度予算額と同額を見込んでいます。  
修繕費：機械及び装置の期首における取得価額の1%を見込んでいます。  
減価償却費：本計画期間での新規投資は実施しないため、既取得資産に係る減価償却費を見込んでいます。

(3) 投資・財政計画(収支計画)に未反映の取組や今後検討予定の取組の概要

※ 投資・財政計画(収支計画)に反映することができなかった検討中の取組や今後検討予定の取組について、その内容等を記載すること。  
 また、(1)において、純損益が計画期間内の最終年度で黒字とならず、赤字が発生している場合には、赤字の解消に向けた取組の方向性、検討体制・スケジュール等について記載する必要があること。

① 投資についての検討状況等

民間の資金・ノウハウ等の活用 (PFI・DBOの導入等)	特になし
施設・設備の廃止・統合 (ダウンサイジング)	特になし
施設・設備の合理化 (スペックダウン)	次回の設備更新時は、現状を考慮し配水管口径の減径などの合理化を図ります。
施設・設備の長寿命化等の 投資の平準化	必要に応じた修繕を行い長寿命化に取り組みます。
施設の共用化	特になし
その他の取組	特になし

② 財源についての検討状況等

料 金	現状の責任水量性の料金体系を維持し、安定した給水収益を確保していきます。
企 業 債	計画期間内に投資の予定はなく企業債の計上はしていません。
繰 入 金	経営基本方針に基づき工業用水の安定供給と事業の健全化を図るため、将来の設備投資に必要な額の繰入を行います。
資産の有効活用等(*)による 収入増加の取組	今後の金利預金の動向を見ながら必要であれば定期預金を検討していきます。
その他の取組	特になし

\* 遊休資産の売却や貸付、債券運用の導入、小水力発電や太陽光発電など

③ 投資以外の経費についての検討状況等

委 託 料	委託できる業務については、既に委託しているため、引き続きこれらの業務について委託を継続していきます。
修 繕 費	適時施設の修繕を行い長寿命化を図ることで、トータルコストの低減に努めます。
動 力 費	施設設備の合理化による動力費の低減を検討します。
職 員 給 与 費	兼務の為、職員給与費を計上していません。
その他の取組	特になし

5. 経営戦略の事後検証、改定等に関する事項

経営戦略の事後検証、 改定等に関する事項	モニタリングを毎年行い必要に応じて経営戦略の検証を行います。
-------------------------	--------------------------------



## 投資・財政計画 (収支計画)

(単位:千円)

年 度 区 分		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度
		(決算)	(決算見込)	(当初予算)									
資本的収入	1. 企業債												
	うち資本費平準化債												
	2. 他会計出資金												
	3. 他会計補助金												
	4. 他会計負担金												
	5. 他会計借入金												
	6. 国(都道府県)補助金												
	7. 固定資産売却代金												
	8. 工事負担金												
	9. その他												
	計 (A)												
	(A)のうち翌年度へ繰り越される支出の財源充当額 (B)												
	純計 (A)-(B) (C)												
資本的支出	1. 建設改良費		1,683										
	うち職員給与費												
	2. 企業債償還金												
	3. 他会計長期借入返還金												
	4. 他会計への支出金												
5. その他													
計 (D)		1,683											
資本的収入額が資本的支出額に不足する額 (E)		1,683											
補填財源	1. 損益勘定留保資金												
	2. 利益剰余金処分量												
	3. 繰越工事資金												
	4. その他												
計 (F)													
補填財源不足額 (E)-(F)		1,683											
他会計借入金残高 (G)													
企業債残高 (H)													
資金残高 (I)	14,645	14,572	16,244	17,844	19,444	21,044	22,644	24,244	25,844	27,394	28,944	30,494	

○他会計繰入金

(単位:千円)

年 度 区 分		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度
		(決算)	(決算見込)	(当初予算)									
収益的収支分		3,002	3,001	2,640	2,546	2,546	2,546	2,546	2,546	2,546	2,496	2,496	2,496
うち基準内繰入金													
うち基準外繰入金		3,002	3,001	2,640	2,546	2,546	2,546	2,546	2,546	2,546	2,496	2,496	2,496
資本的収支分													
うち基準内繰入金													
うち基準外繰入金													
合 計		3,002	3,001	2,640	2,546	2,546	2,546	2,546	2,546	2,546	2,496	2,496	2,496